子ども福祉部門

啓明児童クラブ
福井市朝谷町1-20（美山啓明幼稚園内）

上文殊児童クラブ
福井市生部町36-6（上文殊小学校内）

足羽東こども園
福井市東大味町10-1-1

足羽学園
福井市宿布町19-46-1

子ども発達支援センター フレンズあすわ
福井市大和田1丁目1607

フレンズみゆき
福井市御幸4丁目106-2

フレンズどれみ
吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128

障がい者福祉部門

足羽ワークセンター
福井市栂野町20-5

足羽サポートセンター
福井市米松2丁目6-28

パステル
福井市御幸4丁目1806

スマイル
福井市和田東1丁目2105

カラフル
福井市林町62-3

あすわ相談支援事業所リアン
福井市米松2丁目6-28

足羽更生園
福井市宿布町19-46-1

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3
福井市栂野町20-5（代表所在地）

高齢者福祉部門

愛全園
福井市丸山町40-7

足羽利生苑
福井市栂野町20-7

グループホーム美山
福井市美山町6-1

福井大東包括支援センター（ほやねっと大東）
福井市丸山町40-7 愛全園3F

あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

社会福祉法人足羽福祉会

www.asuwafukushikai.jp
TEL.0776-41-3108　FAX.0776-41-3199

ANNUAL REPORT 2022

足羽福祉会 事業報告

ごあいさつ

チャットGPTをはじめとする急激なAI技術の進化、物価高騰や国際社会の不安定な動向など、私たちを取り巻く外的環境は目まぐるしく変化し続けています。そんな中での令和４年度は、私たちにとって、利用者様の生活を守る、また働く職員を守る上で、本当に大変な１年となりました。オミクロン株の感染力の強さは尋常ではなく、法人全体での感染者数は利用者様が272名（大変ご迷惑をおかけしました）、職員は170名となり、３分の１近くの職員が感染したことになります。クラスターが発生した事業所では回復までに１か月近くを要し、感染のみならず濃厚接触による自宅待機も含め、特別休暇、有給休暇、欠勤の数が前年度より50％も増えたため、災害時のBCPがずっと続く五里霧中の日々を強いられました。

しかしながらそれまでの２年と違って、各事業所は感染が治まっている時にはできるだけ社会とのつながりが持てるよう活動の幅を広げ、新たな取り組みにも挑戦しました。また私たちの現在地やありたい未来とそこに至る道程について、しっかりと議論し、第Ⅴ期中期事業計画を策定しました。そして大切にしたい価値について、多くの職員の声をもとに、新たにパーパス、ミッション、ビジョンを策定し、新しいシンボル・ロゴマークを作りました。その軌跡がこのアニュアルレポート2022にまとめられています。

人を育てる、地域に出かける、人とつながる、新しいことに挑戦する、思いを形にし、そして発信する。もちろんたくさん失敗もしましたが、こうした取り組みは、私たちの未来への「種まき」です。どんな花を咲かせ、実を結ぶかは、まだわかりません。しかし、「まかぬ種は生えぬ」ということわざの通り、手をこまねいて何もしないでいても、大きな時代のうねりに飲み込まれるばかりです。時間はかかるかもしれませんが、芽を出し、光や雨を浴びながらしっかりと根を広げ、のびのびと葉を伸ばす、そうしたプロセスを楽しみながら、みんなで取り組み続けていきます。

合言葉は「生きる」に、伴走し続ける。

令和５年５月
社会福祉法人 足羽福祉会
理事長　髙村 昌裕

ANNUAL REPORT 2022

CONTENTS

ごあいさつ …… 01
法人理念／職員行動指針 …… 03
ASUWA2030／第Ⅴ期中期事業計画 …… 05
令和4年度 あすわニュース …… 07
法人概要／決算報告 …… 09
足羽福祉会、ブランディングプロジェクト始まる! …… 11
事業所報告 …… 13

子ども福祉部門

啓明児童クラブ／上文殊児童クラブ …… 15
足羽東こども園 …… 16
足羽学園 …… 17
子ども発達支援センターフレンズあすわ／フレンズみゆき／フレンズどれみ …… 18

障がい者福祉部門

足羽ワークセンター …… 19
足羽サポートセンター …… 20
パステル …… 21
スマイル …… 22
カラフル …… 23
あすわ相談支援事業所リアン …… 24
足羽更生園 …… 25
あすわ第1／第2／第3 …… 26

高齢者福祉部門

愛全園 …… 27
足羽利生苑 …… 28
グループホーム美山 …… 29
福井大東包括支援センター（ほやねっと大東） …… 30

法人理念

—

共に生き、共に集う、
光を求めて。

職員行動指針

—

私たちは、人として、福祉専門家として、
「共に生きる人」を目指し、
利用者様と共に、地域と共に、
職員と共に歩みます。

理念の実現を目指す長期ビジョン

ASUWA2030

01 住み慣れた地域で
「自分らしく」生きることの実現。

02 共生社会実現に向けて地域、
社会の課題解決を図る行動。

03 成長し、支え合い、
笑顔あふれる職場にする働き方改革。

第Ⅳ期 中期事業計画 2020~2022 ふりかえり

	法人全体の共通目標	令和2年度の活動	令和3年度の活動	令和4年度の活動
1	本人の「いいとこ探し」から夢や願いの実現につながるよう、チームで取り組む。	サービス実践報告会のオンライン実施	→	サービス実践報告会を3年ぶりに開催 他法人の事例報告など幅広い学びの場を提供
2	生活困窮、災害、まちづくり等の地域課題に包括的に応える。	・足羽川ふれあいマラソンコロナ禍により延期 ・新型コロナウイルス対応BCP策定	・足羽川ふれあいマラソンコロナ禍により再延期 ・災害対策本部の在り方検討	・足羽川ふれあいマラソン規模縮小し、3年ぶりの開催 ・全事業所で自然災害BCP策定
3	SDGsの理解を深め、分野を超えた交流、研修を通して具体的に取り組む。	足羽福祉会SDGs宣言に向けた検討・準備	→	・足羽福祉会SDGs宣言発表 ・「SDGs推進会議」の発足
4	新人事管理制度“あすわers”の理解を深め、成長の意欲向上につなげる。	あすわers運用開始	育成プログラムの始動・運用	・制度内容の一部改正 ・制度の理解をより深めるため「あすわers推進会議」の発足
5	さまざまな立場の人が活躍し、支え合える職場環境を作る。	・障がい者法定雇用率4.0% ・前年度よりEPA連携継続	・障がい者法定雇用率4.3% ・新たな外国人職員の採用	・障がい者法定雇用率4.39% ・女性管理職比率40% ・EPA、外国人留学生の受入推進
6	足羽東こども園の園舎改築を行い、新たな地域拠点として再生する。	改築計画開始	園舎の改築、グループホームの新築移転完了	新たな環境で快適なサービス提供の実現
7	ICT活用により、ペーパーレス化、会議短縮など業務改善を進める。	WEB会議導入	・グループウェア導入 ・勤怠管理の電子化開始	・会議資料のペーパーレス推進 ・労務管理の電子化開始
8	小規模事業所の経営改善をはかり、法人全体の収支を向上させる。	法人10か年資金計画に基づき経営安定化の目算	社会資源としての必要性を考慮し、改善策を引き続き検討	全ての障がいのある方のニーズに適したサービス再編

そして、新たな3か年へ

今年度、足羽福祉会のパーパスを制定しました。
法人の新しいシンボル・ロゴマークも制定し、
ASUWA2030に向けた歩みを進めてまいります。

あすわ
「生きる」に、伴走し続ける。

第Ⅴ期（2023~2025）中期事業計画テーマ

「ワクワク × つながり = 新しいウェルビーイングのかたち」

令和4年度

あすわニュース

令和4年度に法人で起こった出来事をピックアップ。職員の成長をサポートする研修プログラムやSDGsへの取り組みの他、コロナ禍で自粛傾向だったイベントが復活したり、CARAMONのオープンがあったりと賑やかな一年となりました。

1 NEWS 目指すキャリアへ導く研修プログラムへアップデート!

法人独自の人事管理制度「あすわers」に基づき、職員がありたい姿・なりたい姿へ導く研修プログラムを前年度よりアップデートしました。

新任職員向けのスタートアップ研修、振り返りをしながらキャリアの現在地を知るフォローアップ研修、法人が大切にする接遇を学ぶ接遇研修など、人間力の底上げ・成長を図る全10種の「必須研修」と、自他を尊重するコミュニケーション手法やリーダーとしての成長促進、また地域の課題を理解し解決に向けたアプローチ手法を学ぶものなど、職員が興味関心のあるものを選択し受講する全6種の「選択研修」という形で大きく2つに分類し実施しました。外部講師を招く研修もあり、日ごろ学ぶことの少ない機会に触れ、良い刺激になっています。

また、職員が安心して長く定着できるよう各事業所に配置する相談担当者向けの研修や、若手職員に対して仕事内容を中心に指導する役割を担うチューター向けの研修など、「あすわers」に反映されていない研修も職員ファーストで企画・実施し、業界水準を上回る定着率となって成果が表れています。

2 NEWS 足羽川ふれあいマラソンが3年ぶりに帰ってきました!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、中止と延期の判断を行ってきた、足羽川ふれあいマラソン大会が約３年ぶりに令和４年11月に開催されました。今大会ではランナーを福井県在住者に限定し、ハーフコースも中止とさせていただくなど、感染状況が落ち着かないなかでの開催となりましたが、感染対策を徹底することで安心安全な大会が実現できました。この日を待っていてくださったランナーやボランティアスタッフ、地域のみなさんのたくさんの笑顔に出会うことができました。

また、大人数イベントとしながら感染を抑え込むという難題に挑戦する大会となりましたが、地域の方々をはじめ参加ランナー、ボランティアの方々に多大なご協力やご支援を賜り、大きな混乱なく盛況なうちに終えることができました。改めて感謝申し上げます。

3 NEWS 子どもたちの感性が輝く、あすわのこどもてん2023!

令和５年１月26日～29日に福井市美術館（アートラボふくい）にて、足羽福祉会主催の「あすわのこどもてん2023～はる・なつ・あき・ふゆ～」を開催いたしました。

足羽福祉会の福祉サービスを利用する子どもたちを中心にして、四季折々のテーマに子どもたちのパワーと独自の感性があふれる作品を展示させていただきました。来館者参加型企画も催し、みて、参加して、創造的な世界を感じていただけたと思います。

また、開催にあたっては法人の子ども福祉部門の若手職員が中心になって、和気あいあいと企画と運営にあたり、これまでなかったような新たな試みにもチャレンジしていただき自身たちの達成感にもつながりました。

4 NEWS 一乗谷朝倉氏遺跡博物館に「CARAMON（からもん）」がオープン!

就労継続支援Ｂ型事業を展開する足羽ワークセンターが、令和４年度にリニューアルした一乗谷朝倉氏遺跡博物館のカフェ運営優先事業者に選定され、令和４年10月１日に地域活性化と障がい者の就労拡大を目指す場所としてカフェ「CARAMON」をオープンしました。

一乗谷朝倉氏遺跡は、国の特別史跡として認定された日本最大の中世都市遺跡で、同博物館はそうした遺跡の価値や魅力を楽しみながら学べるものとなっており、CARAMONは一乗谷朝倉氏遺跡のシンボルである「唐門」から命名されました。

店舗は歴史を感じさせながらもモダンな装飾になっており、ここでしか味わえないオリジナルメニューもたくさん用意しておりますので、ぜひ一度足をお運びください。

5 NEWS 足羽福祉会 SDGs宣言!

足羽福祉会は、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献するため、SDGs宣言を行いました。

地球全体で取り組むべきSDGsについて理解を深めていくと、これまで比較的意識の低かった地球環境負荷軽減への取組みの重要性とともに、法人の活動そのものが、社会課題の解決のためのSDGsに共通する取り組みであることを再認識しています。

令和４年度より、SDGs推進会議を発足させ、各部門や事業所における具体的な推進策を検討し、具体的に負荷軽減目標を設定し取り組んでまいります。また、職員全員がSDGsの知識を深めるための研修も立ち上げ、理解浸透を進めています。

法人概要／決算報告

足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで安心して利用できる
総合福祉事業として、さまざまな施設やサービスを通して、
地域に開かれた、地域に信頼される福祉を目指しています。

法人概要

名　　称	社会福祉法人 足羽福祉会
所 在 地	〒910-2178 福井県福井市栂野町20-7
事業内容	第一種・第二種社会福祉事業（保育・障害・高齢）・公益事業
理　　事 ※令和4年度	理事長 …… 髙村 昌裕 常務理事 …… 滝波 正興 理事 …… 柳沢 全之 理事 …… 中尾 亨 理事 …… 中村 まゆみ 理事 …… 山形 裕之 理事 …… 矢納 ともえ 理事 …… 岩本 昌雄 理事 …… 嶋田 富士男
監　　事	監事 …… 朝倉 乗恵 監事 …… 田中 治
職 員 数	566名（正規職員・パート職員）
総 収 入	3,085,889千円（令和4年度実績）
主な資格の保有職員数	社会福祉士 …… 43名 介護福祉士 …… 144名 精神保健福祉士 …… 6名 介護支援専門員 …… 41名 理学療法士 …… 4名 作業療法士 …… 5名 看護士 …… 19名 保育士 …… 87名
職員満足度向上の取り組み	社員ファースト企業認定（福井県） 子育てファミリー応援企業認定（福井市） ふくい女性活躍推進企業+登録（福井県） 職員健康づくり宣言（協会けんぽ）

決算報告

貸借対照表

令和5年3月31日現在
（単位：千円）

流動資産	917,144
固定資産	3,335,036
資産 合計	4,252,181
流動負債	412,077
固定負債	564,628
負債の部 合計	976,706
純資産の部 合計	3,275,474
負債・純資産 合計	4,252,181

事業活動計算書

自令和4年4月1日
至令和5年3月31日
（単位：千円）

サービス活動収益計①	3,029,524
サービス活動費用計②	3,213,178
サービス活動増減差額③＝①－②	-183,653
サービス活動外収益計④	14,994
サービス活動外費用計⑤	4,322
サービス活動外増減差額⑥＝④－⑤	10,671
経常増減差額⑦＝③＋⑥	-172,982
特別収益計⑧	41,371
特別費用計⑨	41,609
特別増減差額⑩＝⑧－⑨	-238
当期活動増減差額⑪＝⑦＋⑩	-173,220
前期繰越活動増減差額⑫	2,317,861
当期末繰越活動増減差額⑬＝⑪＋⑫	2,144,640
その他の積立金取崩額⑭	128,733
その他の積立金積立額⑮	9,153
次期繰越活動増減差額⑯＝⑬＋⑭－⑮	2,264,220

足羽福祉会、
ブランディングプロジェクト始まる!

中長期事業計画の大きな柱の一つであるブランディングプロジェクトが始まりました。
パーパス（組織の存在意義）、ミッション、ビジョンを定め、それに伴い新しいロゴマークを開発。
新CI（コーポレート・アイデンティティ）として策定しました。
今後、法人内外に向けてさまざまなPR活動を展開していきます。

ブランディングの目的とは?

理念・ビジョンを可視化して、
福祉サービス第一想起法人となる。

福祉サービスのイメージを一新し、
事業ブランドを向上させる。

500名を超える職員の
エンゲージメント※1とリテンション※2を強化する。

学生や一般求職者から選ばれる、
魅力ある法人を目指す。

※1 エンゲージメント…法人に対する愛着心や思い入れ
※2 リテンション…人材の維持または離職しないようにする法人との結びつき

プロジェクト第一弾として、2023年4月1日の福井新聞に法人広告を出稿。福井駅前でメインビジュアルを撮影しました。今後もいろいろと展開していきますのでお楽しみに。

PURPOSE / MISSION / VISION　パーパス / ミッション / ビジョン

既存の「法人理念」と「職員行動方針」に、法人の社会的存在意義をプラス。
より具体的でわかりやすい表現で現代にフィットさせた、足羽福祉会の「パーパス・ミッション・ビジョン」を策定しました。

PURPOSE
組織の存在意義（社会に対してどのような独自価値でどのように貢献するか）

だれ一人取り残すことなく、途切れない支援を行い、
地域社会から生きづらさをなくす。

MISSION
日々果たすべき使命（パーパスを実現するために日々果たすこと）

仲間とともに、福祉の専門家として常に
より良い支援を考え、行い、改善する。
地域と福祉のより良い未来を志向する。

VISION
実現したい未来（ミッションを継続することによって得られる未来像）

共に生きている。
それがふつうの世の中に。

LOGO MARK　ロゴマーク

新しいロゴマークは、タグラインとして『「生きる」に、伴走し続ける。』を掲げ、
シンボルマークも伴走のイメージを表現したものとしました。
法人理念にある「光」をイメージしたイエローは、足羽福祉会の目指す共生社会を実現する希望の色です。

あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

TAGLINE

ブランドの合言葉

「生きる」に、伴走し続ける。

「生きる」とは「尊厳を持って生きる」「自分らしく生きる」ということ。それに寄り添い、支え合い、途切れることなく人生の最期まで共に走り続ける足羽福祉会の姿を表現しています。

SYMBOL MARK

シンボルマークの意味

- 「きずな」と呼ばれる伴走ロープのイメージ
- 支え合う二つの「わ」が伴走しているカタチを表現
- 「co」＝共に、一緒に、協力、共同、共働、互いに、等しく、相棒、パートナー
- 子どもでもお年寄りでも障がいのある方でも、クレヨンやマジックで簡単に描くことができる

COLOR

キーカラーの意味

光をイメージしたイエロー ＝ 共生社会を実現する希望の光

事業所報告

一つひとつの未来、
つないでいきます。

子ども福祉部門

あっという間に過ぎる「子どもたちの今」。そんな大事な時間を共に過ごす私たちは、遊びや学びを通して、やさしく、ちから強く、児童一人ひとりの「らしさ」を引き出すために、ご家族や関係機関と連携しながら支援を続けています。

啓明児童クラブ／上文殊児童クラブ
●放課後児童クラブ

足羽東こども園
●幼保連携型認定こども園

足羽学園
●福祉型障害児入所施設
●短期入所

子ども発達支援センター フレンズあすわ

●児童発達支援
●放課後等デイサービス
●保育所等訪問支援
●短期入所
●児童発達支援センター機能強化事業
（福井市委託事業）

フレンズみゆき／フレンズどれみ
●放課後等デイサービス

思いに、悩みに、喜びに、夢に、
向き合っていく。

障がい者福祉部門

利用者様それぞれが持つ「ちから」に気づき、引き出し、輝かせること。地域に暮らし、社会の一員として人生を自分らしく楽しむための支援をすること。私たちは、地域社会との交流を通して利用者様一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいます。

足羽ワークセンター
●就労継続支援Ｂ型

足羽サポートセンター

●就労継続支援Ｂ型

パステル
●自立訓練（生活訓練）
●就労移行支援　●就労定着支援

スマイル
●生活介護

カラフル
●生活介護　●共生型生活介護

あすわ相談支援事業所リアン
●計画相談支援　●障害児相談支援
●地域移行／地域定着支援

足羽更生園
●施設入所支援　●生活介護
●短期入所　●日中一時支援

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3
●共同生活援助　●短期入所

これからの、
みずみずしい暮らしのために。

高齢者福祉部門

長い年月を過ごし、ご家族や社会への責任を果たしてきた高齢者の方々。そんな皆さまといっしょに、若者のように笑い、泣き、語り、遊び、感動したい。親しみのある地域で、これからも新しい思い出をつくっていただけるようお手伝いしていきます。

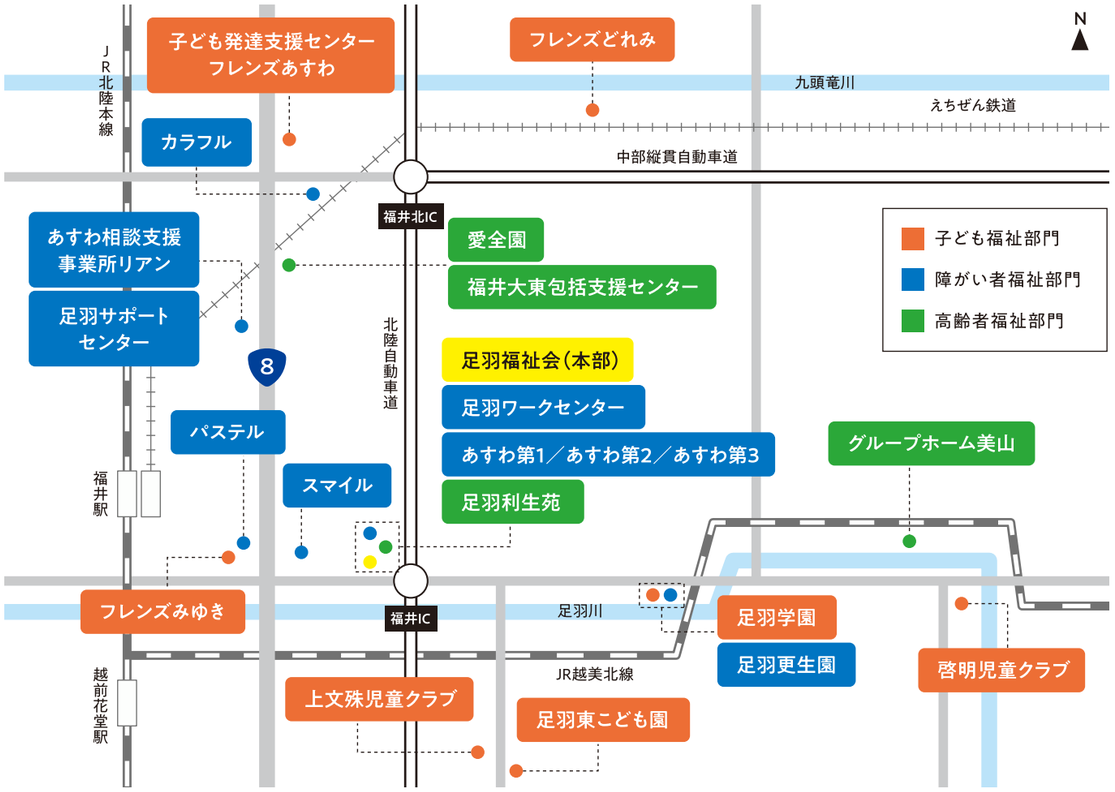
愛全園
●特別養護老人ホーム
●認知症対応型共同生活介護
●短期入所生活介護
●通所介護
●居宅介護支援センター

足羽利生苑

●特別養護老人ホーム
●短期入所生活介護
●通所介護
●居宅介護支援センター

グループホーム美山
●認知症対応型共同生活介護
●小規模多機能型居宅介護
●共生型生活介護・短期入所

福井大東包括支援センター（ほやねっと大東）
●相談支援



子ども福祉部門

啓明児童クラブ／上文殊児童クラブ

KEIMEI JIDO CLUB
KAMIMONJU JIDO CLUB

啓明児童クラブ・上文殊児童クラブは、昼間保護者のいないご家庭の小学生が対象。放課後および長期学校休業中に児童に安心して過ごしていただきます。遊びなどを通して心身ともに成長できる場を提供し、保護者の方が安心して勤務できるよう支援いたします。

DATA

［啓明児童クラブ］
事業内容　児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者　美山啓明小学校または羽生小学校に通う児童（1年生～6年生）
所在地　福井市朝谷町1-20（美山啓明幼稚園内）
管理者　岩本 昌雄

［上文殊児童クラブ］
事業内容　児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者　上文殊小学校に通う児童（1年生～6年生）
所在地　福井市生部町36-6（上文殊小学校内）
管理者　蟻塚 光男

令和5年4月1日現在

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

［啓明児童クラブ］

○生活の連続性保障（多動、落ち着きがない、環境の変化に影響を受ける）を目的とした「特に気になる子ども」への支援を強化していきます。

○コロナ禍によってできなかった公民館などの地域行事へ積極的に参画していきます。またその活動をおたよりなどを通じて地域に発信していきます。

［上文殊児童クラブ］

児童には安全で安心な場所と活動の場を提供し、保護者には子育てと仕事の両立支援を行います。また、上文殊小学校や足羽東こども園と連携し、個々の個性や人権、養護面に配慮し自己肯定感を高められるよう見守ります。活動状況は、ホームページなどで地域に発信していきます。

啓明児童クラブ
「子どもたちによる子どもたちのSDGs教室」への取り組み

夏休みを利用して５年生を中心に３、４年生が担当ごとにSDGsについて調べ、準備を進めました。１、２年生にクイズを出すなどして自分たちができることを考えてもらいました。

啓明児童クラブ
「ハロウィンパーティー」で上文殊児童クラブとの交流会

秋休みを利用して毎年恒例の児童クラブ間交流会を開催しました。今回は40名程の児童が９か所の地域施設や企業・学校を仮装して訪問、お弁当も一緒に食べて交流しました。

啓明児童クラブ
「あすわのこどもてん2023」出品参加

1月26日～29日に福井市美術館にて利用者様の作品約150点を展示するアート展を開催。当クラブでは折り紙と似顔絵で「birthday plate」という大作を展示し、多くの方に見ていただきました。

上文殊児童クラブ
一人ひとりのいいとこ探し

児童のいいところを小さなことからタイムリーに誉め、職員間や保護者と共有しました。学年間の関わりの中で低学年には自主性や譲り合いが生まれ、高学年は自己肯定感の高まりにつながりました。

上文殊児童クラブ
SDGsへの取り組み開始

法人のSDGs宣言を受け受講した講座では「SDGsカルタ」などで学び、児童が意識してゴミの分別を行っています。また、物を大切にする意識から廃品を使った遊びや工作も行っています。

上文殊児童クラブ
地域と共に交流活動の一部再開

上文殊公民館に児童作成のクリスマスカードを掲示していただき、啓明児童クラブとのハロウィン交流で美山地区にも出かけました。「あすわのこどもてん2023」には12作品を出展しました。

子ども福祉部門

足羽東こども園

ASUWA HIGASHI KODOMOEN

文殊山のふもと、四季折々の自然が感じられる当園。2022年春に竣工した新園舎では「自然活動、交流活動、たてわり活動、楽しい給食、体操教室、健康・安全活動」をかかげ、一人ひとりが自らを発揮し豊かな感性を持った子どもたちが育っています。

DATA

事業内容　幼保連携型認定こども園（定員１号:12名／2･3号:130名）
対象利用者　0～5歳児の乳幼児
所在地　福井市東大味町10-1-1
管理者　三上 登美子

令和5年4月1日現在

子どもたちがわくわくする園庭が完成

昨年度の園舎改築に続き、園庭の改修を行いました。新しく備えた築山では、芝滑りや雪山遊びなど、年間を通し楽しく遊びながら子どもたちの体力増進につなげています。また、安全対策として、新たに未満児用の芝生広場やセーフティースペースを設け、さらに滑り台や砂場など既存の遊具の配置を見直しました。子どもたちは新しい遊び方を見つけながら、園庭遊びを満喫しています。今後も子どもたちと職員で魅力ある園庭づくりを継続していきます。

自然活動の取り組みが充実

散歩や散策など、園舎建設により１年近く離れていた上文殊地区のいろいろな場所に、積極的に出向きました。ピオトープや神社、お寺、田畑のあぜ道など、緑の自然にあふれた場所では新しい発見があり、子どもたちの元気な声が響いていました。園活動のなかでも、春から夏は畑活動や野菜栽培、秋は落ち葉や木の実拾い、冬は雪遊びなど、子どもたちは様々な体験のなかで自然に触れることができました。

保護者や地域と共に行う活動を再開

新型コロナやインフルエンザなどの感染状況を確認し、対策の徹底を行いながら、少しずつ保護者や地域に向けた活動を再開しました。保育参観や親子遠足、もちつき会など、子どもたちの楽しい思い出となりました。保護者懇談、労働奉仕などを通し、保護者同士の交流もできました。また、法人の子ども福祉部門では新たに地域に向けた活動として「あすわのこどもてん」「子育て支援セミナー」「遊びの広場」を実施し、保護者や地域の方が多く参加されました。

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

職員の質向上を目指し、園内研修のなかで、子どもの権利についての学びを深めたり「人権擁護の為のセルフチェックリスト」の活用、専門性や人間力を高める研修への主体的な参加を促進します。また、ICTを活用し職員の業務負担の軽減を行いつつ、その機能を活かした記録の見直し、登降園管理、保護者や地域への情報提供に役立てます。

子ども福祉部門

足羽学園

ASUWA GAKUEN

現在、障がいのあるお子様の成長を支える仕組みは増えた一方、社会的擁護や自閉スペクトラム症など専門的支援のニーズは高まっています。私たちは、利用者様が地域で安心して暮らせるよう、ご家族・関係機関と連携しながら、一緒に考えていきます。

DATA

事業内容　福祉型障がい児入所施設（定員20名）
　　短期入所支援（定員4名）
対象利用者　18歳までの知的に障がいのある子ども
所在地　福井市宿布町19-46-1
管理者　嶋田 富士男

令和5年4月1日現在

久しぶりの全員でのおでかけ楽しいな

みんなが楽しみにしていたスキージャム勝山でのBBQ。８月予定が延期になり10月実施となりました。あいにくの雨ではありましたが、全員でバスに揺られてLet's go！到着すると嬉しすぎて雨の中を山に向かって走っていこうとする子どもたち。必死に追いかける職員でした。思いっきり食べ、笑い、心もお腹もいっぱいになったひと時でした。来年もみんなでのお出かけを企画して楽しみたいと思います。

自分たちの取り組みを振り返る

第５回目となる「福祉サービス第三者評価」を令和４年10月４日～５日に受審しました。今回の受審ではこれまで以上に「子どもの権利・尊厳」にポイントが置かれていたと感じました。評価結果に基づき、より良いサービス向上を目指すと共に、子どもたちを主軸にした取り組みにこれからも邁進していきたいと思います。

いつまでも応援しています

今年度は３名の子どもたちが、学園から巣立っていきました。その中の１名の方が足羽学園からは久しぶりに一般就労への就職となりました。春からは独身寮での一人暮らし。必要な物を準備するなかで自分の意見を言えるようになってきて逞しさを感じました。送り出す職員は本人にエールを送ると共に、これからも陰ながら支えていこうと心しています。頑張れ～。そしていつでも話しにおいで。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

○子どもたちの思いの表出を、自治会や日々の生活の中で「～したい、やりたい」を促すことで受け止め、一人ひとりの思いを大切に支援します。

○職員間での感謝やプラスのストロークを意識した声かけを行い、心理的安定性の担保された職場風土づくりに取り組みます。

子ども福祉部門

子ども発達支援センター フレンズあすわ／フレンズみゆき／フレンズどれみ

KODOMO HATTATSU SHIEN CENTER
FRIENDS ASUWA /
FRIENDS MIYUKI / FRIENDS DOREMI

幼児期・学齢期のさまざまなライフイベントに保護者の皆様と一緒に取り組んでいます。日々の悩みや課題等にも、ご本人の夢に向かうステップのために支援の専門職としてサポートし、関係機関と連携しながら家庭と学校以外の第三の居場所づくりに努めています。

DATA

［子ども発達支援センターフレンズあすわ］
事業内容　①児童発達支援（定員12名）　②放課後等デイサービス（定員10名）　③保育所等訪問支援　④短期入所（定員5名）　⑤児童発達支援センター機能強化事業
対象利用者　①就学前の児童（7歳未満）　②学齢期の児童（6歳以上18歳未満）③18歳未満の児童　④当センターの利用者様　⑤福井市内在住の方
所在地　福井市大和田1丁目1607
管理者　渡辺 浩基
［フレンズみゆき］
事業内容　放課後等デイサービス（定員10名）
対象利用者　学齢期の児童（6歳以上18歳未満）
所在地　福井市御幸4-106-2
管理者　渡辺 浩基
［フレンズどれみ］
事業内容　放課後等デイサービス（定員10名）
対象利用者　学齢期の児童（6歳以上18歳未満）
所在地　吉田郡永平寺町松岡神明1-128
管理者　渡辺 浩基

令和5年4月1日現在

子ども福祉部門での合同イベントの企画と実施

令和３年度より実施している子ども福祉部門での合同のイベントを今年度も実施しました。令和５年１月26日～29日まで福井市美術館の企画展示室をお借りして、利用者様のアート作品の展示会「あすわのこどもてん2023」を開かせていただきました。また、令和５年２月４日には仁愛大学心理学科准教授の渡辺克徳先生に「親とこどものマインドフルネス」と題してご講演いただきました。どちらのイベントも好評で今後も継続して合同イベントを企画していきます。

コロナ禍に負けない取り組み

新型コロナウイルスが流行する以前は毎年開催していました「親子ふれあいボウリング」ですが、３年ぶりに復活開催いたしました。新型コロナの猛威は時期によってさまざまですが、これまで利用者様と共に取り組んだ感染対策やコロナ禍におけるさまざまな活動を活かせるように、今回も福井フェニックスライオンズクラブ様のご支援の下、実施することができました。久しぶりに親子で体を思いっきり動かし、ナイスプレイには称賛しあい、ひと時の余暇を楽しむことができました。

地域で連携して支える仕組みの構築

児童発達支援では保育所などの並行通園先、放課後等デイサービスでは所属されている学校や他法人の事業所等と定期的な会議を重ねながら、発達支援はもちろん、地域や学齢期への移行支援や利用者様本人を含めたご家族を支える支援を行ってきました。学齢期から成人期への移行支援については、移行先となる事業所との情報共有や課題解決のための会議等を行い、利用者様や保護者様のご負担が少なくなるように連携して対応してきました。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

○子ども発達支援センターフレンズあすわの児童発達支援の定員拡充を含め地域から信頼され、選ばれる事業所となるよう、さらなるサービスの質向上を目指します。

○特に大きな負荷がかかっている業務やICT化することで負担軽減につながる業務等を洗い出し、軽減に向けた方策を検討できるよう業務改善委員会を設置します。

障がい者福祉部門

足羽
ワークセンター

ASUWA WORK CENTER

利用者様自身が生活の中心者となって未来を選択し「働きたい」「自立したい」という夢が実現できるよう支援しています。個別支援計画をもとに日常生活を整え、利用者様のニーズや能力に応じた社会経験の場を提供し、目標達成を実感いただけるよう支援しています。

DATA

事業内容　就労継続支援B型事業（定員35名）
対象利用者　就労意欲のある障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市栂野町20-5
管理者　髙村 昌裕

令和5年4月1日現在

草刈り・剪定作業

通常の清掃作業に加え、春から秋にかけて草刈りや剪定作業も行っています。リピーターのお客様からのご依頼だけでなく、地域の個人宅など新規のお客様も増えてきました。利用者のみなさんもそれぞれの役割がすっかり身について、手際よく進めており頼もしい！暑いなかでの活動になりますが、お客様からの「ありがとね」のお言葉はとても嬉しいです。

CARAMONのオープン

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館のカフェ運営優先事業者に選定され、令和４年10月１日に地域活性化と障がいのある方の就労拡大を目指す場所として、博物館内にカフェ「CARAMON（からもん）」をオープンしました。
「歴史を感じることができるカフェ」をコンセプトに、「ここでしか食べることができない特別なメニュー」を提供し、オープン以来、県外からの観光客をはじめたくさんの方にお越しいただいています。もちろん利用者様も張り切って接客や厨房での仕事に取り組んでいます。

県内イベント出店の復活

コロナ禍により県内イベント開催の中止が続いていましたが、令和４年度からは感染対策をしっかり施した上での開催となり、外販ブランド「あすわの実」として福井駅前での「ワンパークフェス」や金津創作の森での「森のアートフェスタ」といったイベントに出店し、たくさんのお客様にオリジナルメニューを販売させていただきました。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

利用者様が意欲や適性を活かし、作業メニューの選択肢を増やしながら、平均目標工賃月額が40,000円以上となるよう取り組みます。また職員のSDGs理解を進めるとともに、飲食事業におけるプラ容器使用減に取り組みます。

障がい者福祉部門

足羽
サポートセンター

ASUWA SUPPORT CENTER

利用者様の「働きたい」という希望を実現し、豊かな社会生活が送れるよう個別支援計画をもとにサービスを提供しています。企業での「施設外就労」も実施しており、社会体験活動にて一人ひとりが社会の一員だと感じられるよう支援しています。

DATA

事業内容　就労継続支援B型事業（定員30名）
対象利用者　就労意欲がある障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市米松2-6-28
管理者　渡辺 順子

令和5年4月1日現在

手探りの越前カンタケ栽培

今年は足羽サポートセンターで越前カンタケの栽培を始めました。越前カンタケは福井県が独自に開発したヒラタケの一種です。
何もかもが初めて行うことで、福井県福井農林総合事務所の方にもご教授いただき、利用者様と共に「美味しい越前カンタケが出来ますよ～に」と祈りながら丹念に育てました。

農業は奥が深い

農作業を行うことになって思うこと。「自然の中で、汗だくになって働くって最高！」利用者様も外に出ることでリフレッシュされていました。作業は、土や水の管理が大変で、私が想像していたより手間がかかる作業だとわかりました。いくら機械化されても手作業は残る。農家は経営者にもならなくてはいけない。知られざる農業の大変さがたくさんある気がしました。農業は奥が深い！

来年こそは宿泊か県外への研修旅行

今年度も昨年度に引き続き、日帰り福井県内での研修旅行になりました。企画から利用者様と考え、宿泊したいとの意見もありましたが、新型コロナウイルス感染症を鑑みまして今年度も日帰りにせざるを得ない状況でした。しかし、県内日帰りでも十分楽しめる内容だったようです。旅行の帰りには楽しかったとの意見も多数ありました。来年度は宿泊もしくは県外に行きたいですね。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

手探り状態から始めた農業事業は、農地を広げて収穫量を増やし、法人内での販売を中心に行い、利用者様の工賃アップを目指していきます。また、清掃活動やレクリエーション等の地域活動に積極的に参加することで利用者様が地域のなかで活躍できる場をつくり、イキイキと活動できるようにしていきます。

障がい者福祉部門

パステル

PASTEL

障がいに関して、成人期以降の支援はまだまだ不十分であると言えます。特に見えにくい障がいについては長い目で向き合うことが大切です。関係機関等と連携しながら、ご本人と支援者との信頼構築をつくり、ご本人やご家族の思いに寄り添いながら支援しています。

DATA

事業内容　自立訓練（生活訓練）事業（定員14名）／就労移行支援事業（定員6名）／就労定着支援事業
対象利用者　地域での自立した生活や就労を希望する障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市御幸4-1806
管理者　吉野 拓巳

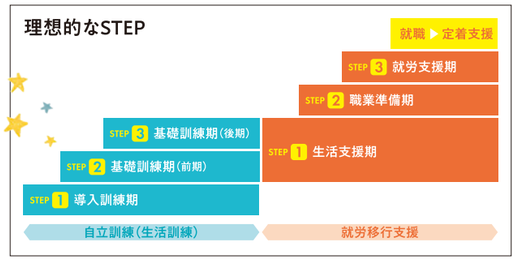
令和5年4月1日現在

サービス事業の再編

～利用者様にわかりやすいステップアップの仕組みへ～

STEP UP!

障がい者福祉部門の就労支援事業の再編を行い、令和５年１月からパステルは自立訓練（生活訓練）事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業の多機能型サービス提供事業所となりました。これらの事業を一体的に行い、足羽ワークセンターや足羽サポートセンターの就労継続支援Ｂ型事業との連携を密にすることによって、一人ひとりのニーズやペースに応じた途切れの無い、きめ細かな支援が可能となる体制が整いました。



就職活動を始めるに当たって

～利用者様に必要なスキルや情報をリアルに感じてもらうには～

「就職がしたい」「たくさん稼ぎたい」「○○に出かけたい」など、利用者様の夢や希望はさまざまです。しかし、実際は、必要なこと・学ぶべきことはたくさんあるはずですが、利用者様自身にとっては具体的に示すことが難しいことが多々あります。私たちは、利用者様がより具体的に理解し行動できる場として、自己発信できる講座や利用者様が主体となって活動するサロンを提供し、実際に就職した利用者様から就職について話をしてもらったり、実習として清掃や飲食の場面に出かけてもらったりしています。失敗したり挫折すること、思い描いていたものと違ったといった意見もありますが、それも経験の１つとして夢や希望が実現できるようコツコツとした支援をしていきます。

利用者様の意思決定を尊重した体験による社会性やコミュニケーション場面の充実

～日常場面から「意思決定する」「自己実現する」の喜びを～

コロナ禍でも社会参加をする楽しみや喜びなどを実感するため、感染対策を講じながら外出の機会を増やしました。スポーツ、芸術、買い物、飲食等、その場に行き直接見聞し、触れたり、地域の人と会話をしたりすることは、事業所内では味わえない社会体験です。支援者がお膳立てしてしまうのではなく、「行きたい場所」「食べたいもの」「やりたいこと」等をグループ活動や講座のなかで意見してもらい、それを実現し実行する喜び・楽しみを利用者様に知ってもらい、同時に「自分の思いを伝え、実行・実現する」心地よさも感じていただいています。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

サービス事業の再編をさらに良いものに更新し、利用者様の夢や希望が実現できるよう、実習や体験、社会体験の機会を増やしていきます。利用者様のエンパワメントやストレングスの視点を忘れずに利用者様も職員も共に成長できる好事例を増やし地域発信していきます。

地域とつながる第一歩「中学生職場体験学習」

「障がい理解・障がい教育」の一環として、地元の成和中学校より職場体験で２名の生徒を受け入れました。普段あまり障がいのある方と関わりが無いと話す２人も、利用者様と一緒に活動に参加するなかで、職員の動きを通して利用者様の特性を知り、関わり方について学んでいました。最終日には生徒と職員の質疑応答において、「障がいのある方の支援はどのように考えて提供しているのですか？」といった問いも生まれ、職員も支援者としての基本を考える良い機会となりました。

月毎のイベントを通して季節を感じよう

コロナ禍で外出などを自粛するなかでも、利用者様に季節や旬の味を感じていただけるよう、月毎に「季節を感じるイベント」を開催しました。11月は「焼き芋会」、12月は「サンタと一緒にクリスマス会」、２月は「福は内、鬼は外の節分会」等、その時節に合わせた行事を企画、事業所内を飾り付けたり、職員が変装して登場したりと、利用者様の笑顔や歓声あふれる場面づくりができました。

障がい者福祉部門

スマイル

SMILE

障がい福祉サービスの生活介護事業として、利用者様の日中活動では、事業所内での軽作業や創作活動、社会体験活動や研修旅行など、さまざまな活動があります。軽度～重度まで利用者様一人ひとりの可能性を求め、意思決定の場を通してニーズに合った活動提供のお手伝いをしています。

DATA

事業内容　生活介護（定員30名）
対象利用者　軽作業や余暇活動を通して生きがいをつくりたい障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市和田東1-2105
管理者　恵美 淳文

令和5年4月1日現在

マット編みの品質向上と販売拡大から地域とのつながりづくり

日中活動の一環としてマット編みに取り組んでいます。地元の繊維会社様からいただいた紐を、利用者様が１本１本手で編み込んで、最終工程では地域のボランティアのご協力をいただき１枚のマットに仕上げます。商品名を「AmuAmu（アムアム）」として、デザインや付加価値の検討を行い「あすわの木（県立図書館）」と「パン工房 セタロウ（福大医学部前）」を拠点に販売、売上も好調です。今後も「地域への情報発信・障がい理解」を軸に、認知度向上に向けた商品づくりを目指します。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

スマイルでは、利用者様の特性に合わせて個別のスケジュールづくりや構造化による支援の取り入れ、そして小グループで行える創作活動や体験活動の充実を目指しています。また、重度利用者様の受け入れニーズを早期に捉え、実習など積極的に受け入れ「質の高い支援を提供するスマイル」「本人中心の支援を提供するスマイル」に取り組みます。

障がい者福祉部門

カラフル

COLORFUL

障がい福祉サービスの生活介護事業所として、主に高齢の方や重度障がいの方の日中活動においてリズムある充実した生活づくりに取り組んでいます。特に、地域に出向く活動に力を入れ、日々の散歩でのあいさつ、駅舎の清掃などで利用者様と地域との「笑顔」のつながりが生まれています。

DATA

事業内容　生活介護（定員30名）／共生型生活介護
対象利用者　作業や創作活動を通して生きがいをつくりたい障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市林町62-3
管理者　恵美 淨文

令和5年4月1日現在

利用者様の個性（本人らしさ）や自己決定に着眼を置いた支援

利用者様の余暇活動において、個々のニーズや障がい特性に合わせた活動を提供しています。今年度は、皆さんで作った作品を全国サポート協会主催の「アールブリュット展」に出展して、２作品が入賞しました。表彰式当日は利用者様に出席していただき、表彰状の授与や、一般の方と共にいろいろな作品を観覧することで、次の作品づくりに向けた意欲にもつながる良い経験の場となりました。今後も利用者様の「強み」を作品制作に活かし、自己表現の場を増やしていきたいと考えています。

地域への情報発信・障がい理解を目的とした地域交流（ブログでの活動発信）

コロナ禍でできることとして、近隣の東藤島公民館に利用者様が製作した「毛糸の小鳥と段ボールの大樹」を展示しています。公民館を利用される地域の方の目に触れ、カラフルの活動に興味を持っていただければと考えています。また、今年度は足羽福祉会ホームページの「施設だより」を通して、余暇活動やイベントなどの活動紹介に取り組みました。現在までに約150件の記事を掲載しています。今後もSNSの活用で地域の方やご家族に新たな「情報発信」を行っていきます。

コロナ禍でもできることを!研修旅行や、利用者様と共に作った新年会

今年度の利用者様研修旅行は、県内にて日帰り旅行を実施しました。近年はコロナ禍のため、外出や体験など多くの自粛や制限を行いながらの活動でしたが、今年度は感染防止を徹底しながら、範囲を嶺南まで広げ、利用者様の希望が多かった「みかん狩り」を体験に加えて実施しました。また、新年会は感染対策のため事業所内での開催でしたが、「見て楽しむ」をコンセプトに「水に浮かぶ花」や「文字が浮き出るおみくじ」など趣向を凝らした内容としました。いずれも利用者様の笑顔や満足の声が広がる活動となりました。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

現在、65歳を過ぎた利用者様が10名以上利用されています。介護認定を受けても「元気な間はカラフルで活動したい」という利用者様の思いに応えるべく、昨年10月より共生型通所介護事業を行っています。次年度は、理学療法士による機能訓練を重点項目の１つのとして提供しながら、利用者様の健康増進、残存能力維持に取り組みます。また、学卒の若い方から高齢の方まで元気に活躍できる活動を提供して、笑顔あふれる事業所づくりを目指します。

障がい者福祉部門

あすわ相談支援事業所リアン

ASUWA SOUDAN SHIEN JIGYOUSHO LIEN

障がいのある方の就学、進路、住まい探し、地域移行への対応等について、ご本人やご家族等の相談に応じさせていただきます。そのなかで、情報提供やサービスの利用に関する支援を行い、関係機関と連携して利用者様が望む暮らしの実現に向けて取り組みます。

DATA

事業内容　計画相談支援／障害児相談支援／地域移行支援／地域定着支援
対象利用者　相談支援を必要とされる方（障がいの特定なし）
所在地　福井市米松2-6-28
管理者　渡辺 順子

令和5年4月1日現在

放課後等デイサービスがいっぱいって本当?うちの子利用できますか?

放課後等デイサービスは就学後から利用できるサービスですが、利用する児童が年々増え続けており事業所に空きがなく、就学後に利用できるか心配されるご家族の声を多く聞く状態がここ数年続いています。
サービスを調整する私たち相談員も、必要なサービスが受けられるよう、複数の事業所の組み合わせや事業所の特徴を活かし児童の成長につながる支援が実現できるよう努めています。また、地域課題の１つとして自立支援協機会で取り上げていただき、問題解決につながるよう取り組んでいます。

今の生活がとても充実しています!今の夢は…

A様は数年前までは、認知症の母と二人暮らしで、買い物以外は外に出ない、テレビ・電話もなく、衛生面や健康面が心配な上に人との関わりも拒否した状態で何年も過ごしていました。そのため、多職種連携で支援にあたりながら、母とA様の支援とを分け、A様は今、一人暮らしを満喫できるようになりました。
一人暮らし開始当初は、ヘルパーなど多くの支援が必要でしたが、今ではヘルパーを卒業し自立しています。そして、B型事業所で働くことに充実感を持つことができ、余暇は自分の好きなことをしながら過ごしています。
そんなA様の次の夢は、やさしいパートナーを見つけることです。

介護保険と障がい福祉の連携

65歳になると、障がい福祉サービスを利用していても介護保険に該当するサービス（生活介護や短期入所等）を利用している場合、介護保険優先の原則から介護保険を申請する必要がありますが、互いの制度が違うためいろいろな課題が発生しています。しかし、足羽福祉会は両方のサービスを提供しているため、互いに勉強しながら利用者様の最善につながるよう取り組んでいます。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

利用者様の夢や希望の実現に向けて、丁寧な支援を心がけて取り組んでいきます。また、災害時の対応について地域の方々と協議しながら、利用者様が地域のなかで安心して暮らせるようにします。また、利用しやすい事業所となるよう親切丁寧な接遇で対応し、フットワークを軽くして対応させていただきます。

障がい者福祉部門

足羽更生園

ASUWA KOUSEIEN

重度の障がいがある方の施設入所支援を中心に、安全安心の支援を提供しています。日中活動では個別の環境調整・小規模グループ化・社会参加の機会充実、暮らしの場では余暇の充実・地域移行支援など、一人ひとりの望む暮らしの実現に向け「共に」取り組んでいます。

DATA

事業内容　障がい者支援施設　①施設入所支援（定員60名）
②生活介護事業（定員60名）　③短期入所支援（定員4名）　④日中一時支援（定員5名）
利用者層　施設支援を必要とする障がい者（障がいの特定なし）
所在地　福井市宿布町19-46-1
管理者　嶋田 富士男

令和5年4月1日現在

私だけのとびきりプランでおめでとう

１年に一度の誕生日を「○○さんDAY」と銘打って、その方のやりたい、行きたい、食べたい、の思いを叶える日に位置付けました。いろんなチラシやパンフレット等から行き先や食べたい物を選んで、誕生日当日は、職員と共に嬉しそうな表情で出かけて行きました。帰ってきた時に職員が声をかけるとどの利用者様も満足そうな笑顔で、その様子に職員もつられ笑顔となる素敵な１日となりました。

災害時の対応に関した地域との話し合い再始動

当園において、地域とのつながりを大切に考え、広報誌の発行等の取り組みを継続してきましたが、コロナ禍となり直接お会いする機会は減っていました。福祉避難所を知っていただくために、地域住民の方に避難場所の見学をしていただく機会の設定や自治会長との話し合いの場を持ちました。まだまだ検討していく課題はありますが、地域の皆様と共に取り組んでいきたいと思います。

学びの提供と職員間での情報共有

昨年度より、障がい関係の動画を視聴できるコンテンツの「スペシャルラーニング」を導入しました。職員が「見たい・学びたい」と思った時に気軽に学べるための導入でしたが、今年度は、障がい福祉部門全体に導入が広がり、自身で学ぶだけでなく新たな活用方法として動画視聴、その後のグループワークでの学びを深める機会を持つことができました。これからも利用者様のサービス向上に向けて職員の学びを深めていきます。

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

○ユニット対応から個別対応に視点をシフトし、ご本人が「望む暮らし」を担保するべく、縦割りの計画ではなく一体的となる個別支援計画の作成に取り組みます。

○地元の皆様に集まっていただく行事を開催し、地域コミュニケーションの促進に取り組みます。

障がい者福祉部門

あすわ第1
あすわ第2
あすわ第3

ASUWA DAI1 / ASUWA DAI2
ASUWA DAI3

「地域社会の中で自分らしい暮らしがしたい」という思いが実現するよう支援を行っています。住んでいる地域の行事への参加や社会体験、日中活動を行う事業所との連携、個別ケアの充実を通して、安らぎのある「僕の家・私の家」となるよう取り組んでいます。

DATA

事業内容　共同生活援助 3事業所（グループホーム17か所）
○あすわ第1:グループホーム4か所（総定員37名）
○あすわ第2:グループホーム8か所（総定員62名）
○あすわ第3:グループホーム5か所（総定員39名）
短期入所
○たんぽぽ短期入所（定員2名）
○あすわ短期入所（定員4名）
○ひまわり短期入所（定員2名）
対象利用者　地域で自分らしく暮らしたい障がい者（障がいの特定なし）
代表所在地　福井市栂野町20-5
管理者　あすわ第1　平澤 明
あすわ第2　吉村 宜利子
あすわ第3　荒川 待子

令和5年4月1日現在

あすわ第1

いつものお店でさっぱりと

地域の社会資源を利用し、地域の一員として当たり前の生活を送ることを心掛けています。そのなかでたんぽぽABのご近所さん「ナガオカ理髪店」様は利用者様御用達のお店となっています。いつもご夫婦で利用者様を温かく迎えてくださり、散髪が終わると頭だけじゃなく、気持ちもすっきりとします。いつもありがとうございます。また、お願いしまーす。

あすわ第2

コロナ禍でも受け入れ増加

コロナ禍でも感染対策を取りながら短期入所の受け入れを行いました。10月にあすわ短期入所を併設している、はやぶさ・あすかの男性グループホームでコロナ感染のクラスターが発生し、短期入所利用者の方も一緒に隔離静養をすることもありましたが、たんぽぽ短期入所や相談事業と連携を取りながら、新規の方を含め昨年度以上に受け入れを行いました。

あすわ第3

楽しいイベントが徐々に復活

おうち時間の充実のために、利用者様自らが選択し、体験できるイベントを多く取り入れました。おやつや食事づくり、夕涼み会等を季節感あふれる内容で企画し、利用者様の要望を伺いながら共に準備し、参加し、笑い声が響き合う楽しいひと時となりました。
お花見や、味覚狩り等の外出も行い、外での楽しみも少しずつ増えてきました。イベントに携わった私たち職員も、自然と笑顔があふれました。

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

利用者様の高齢化が進むなか、安心・安全な暮らしが継続できるよう、環境整備と支援力の向上を目指します。また、地域のいろいろな活動に積極的に参加し、地域の方々と交流を重ねながらお互いの理解を深め、グループホームとして地域に貢献できることを、利用者様と一緒に考え取り組んでいきます。

高齢者福祉部門

愛全園

AIZENEN

出かけて安心、過ごして満足、相談にも親切、丁寧なサービスの提供を心がけています。日常の介護はもちろん、健康への看護とおいしい食事には特に気を配っています。さらにこれからは、在宅からご利用の方、入居されている方、一人ひとりの状態をしっかり見て、その方に適した生活活動の向上への介護に取り組みます。

DATA

事業内容　ユニット型介護老人福祉施設（定員60名）／従来型介護老人福祉施設（定員30名）／短期入所生活介護（定員35名）／通所介護（定員25名）／居宅介護支援事業所／認知症対応型共同生活介護（定員9名）
対象利用者　65歳以上の高齢者（第1号被保険者）及び40歳～64歳までの医療保険加入者（第2号被保険者）
所在地　福井市丸山町40-7
管理者　滝波 正興

令和5年4月1日現在

外国人留学生の活躍

美浜町にある若狭医療福祉専門学校の留学生３名が令和４年５月から、パートタイム職員として、平日の月曜日から金曜日は午後３時から午後７時まで、土曜日・日曜日は午前10時から午後７時まで働いています。
最初は片言の日本語とスマートフォンの翻訳機能を使いながらのコミュニケーションでした。フロアの掃除や食器洗浄など主に間接業務を担当しています。彼女たちの明るくまた礼儀正しい姿は、感染対策で何かと制限がある日常を明るくする存在となっています。また、１月からはEPA介護福祉士候補者２名の受け入れも行っています。

日常生活の中にある喜び

徐々に日常生活の動きが増えてきました。これまでは活動に制限があり、なかなか外に出ることができませんでしたが、徐々に解除されると共に天気の良い日には外に出て散歩しました。気持ちの良い青空と若葉の緑がとてもきれいで、心も体もわくわくウキウキします。またお弁当も格別でとても美味しかったです。本当に待ち望んでいた時間でした。

コロナとの付き合い

今年度は７月と12月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。それぞれ約１か月感染対応に追われる日々が続き、応援していただいた方々の力で収束を迎えることができました。利用者様、ご家族、関係者の方々には大変ご心配をおかけしました。苦くも貴重な体験、思い出となりました。今回の感染を通して愛全園の職員一人ひとりがたくましく成長しました。今後もしっかり感染対策をしながら、安心・安全にご利用していただけるように頑張ってまいります。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

「利用者様と共に」コロナ禍では、ご家族との絆や地域とのつながりが弱まり職員不足の課題もありました。それに対し、安心して面会や交流、ふれあいができるよう、地域の声を聞く工夫の１年でした。ここにきてようやく明るさと楽しみのある時間が戻ってきています。私たちはこれまでの学びを活かし、利用者様の人生最期を納得していただくためのサービス提供に取り組んでまいります。職員一人ひとり力を合わせ、利用者様の喜びを一緒に分かち合える愛全園を目指します。

高齢者福祉部門

足羽利生苑

ASUWA RISHOEN

当苑は、特に認知症高齢者介護を使命としており、満足度の高いサービス提供で介護に関わっています。安全で親しみやすく家庭的な雰囲気を創造し、親切丁寧、敬愛の念を持ち、利用者様の笑顔や残された能力を引き出し、安心できる暮らしを支援していきます。

DATA

事業内容　介護老人福祉施設（定員59名）※介護予防／短期入所生活介護（定員15名）／通所介護（定員20名）※福井市日常生活総合事業通所型Ａ型・通所型予防給付相当含む／地域密着型介護老人福祉施設（定員18名）※介護予防／認知症対応型通所介護（定員12名）／居宅介護支援事業
対象利用者　要支援・要介護高齢者
所在地　福井市栂野町20-7
管理者　岩本 昌雄

令和5年4月1日現在

「家族につなげる」介護力向上の継続とACP取り組み（2022～2023へ）

利用者様の思いをつなげる支援に継続して取り組んでいます。実践事例として、ご自宅への外出支援に関わるご家族との調整、送迎態勢を整えました。お仏壇に手を合わせる利用者様の姿や玄関先での表情から、入所されてもご家族との関係を断つことのない支援の大切さを実感しました。

季節行事とアマ相撲「利生苑場所」の開催

コロナ禍でご家族の参加ができないなかでも、敬老会や夏祭り等の大切な日や季節の行事に工夫を凝らしながら、張り合いのある生活が持てるよう実施しています。年忘れ会もその大切な行事で「ありがとうございました」の意を込めてクリスマスプレゼントと共に、お相撲さん２名が苑内各ユニットを訪れ、利用者様との取り組みが実現。大笑いと感動に包まれた日となりました。写真は、大好きなビールをプレゼントしてもらい満面の笑みのＭ様。

知る人ぞ知る？伝統の『たこ焼き』でおもてなし

デイサービスでは、いつの頃からか、気候の頃合いを問わずに伝統の「たこ焼き」を提供しています。利用者様（特養の利用者様もそうですが）はたこ焼きが大好きなのです。焼き鳥も大好きなので、こちらは気候を見て提供します。和気あいあいとおしゃべりを楽しみながら過ごすひと時「ここが居心地の良い場所であってほしい（店主の金ちゃん談）」。

NEXT STEP 次年度に向けた取り組み

「家族につなげる」介護力向上の継続とACPの取り組み（2022～2023へ）は利用者様の思いをつなげる支援の柱としています。介護力向上での基本介護の取り組みに加え、生活全般にも目を向けた視点での支援の浸透、実践の積み重ねを目指します。

高齢者福祉部門

グループホーム美山

GROUP HOME MIYAMA

「美山で育ち、美山で暮らす…」利用者様の思いに応えるため、2つの事業により地域での生活を支援しています。特に「地域と共に」を念頭に置き、地域との双方向の交わりを大切にし、「地域密着型施設」として地域に信頼される施設を目指しています。

DATA

事業内容　認知症対応型共同生活介護（定員9名）／小規模多機能型居宅介護事業所（定員29名）／その他緊急時対応ショートステイ（各1名）／共生型生活介護・短期入所
対象利用者　要支援・要介護高齢者
所在地　福井市美山町6-1
管理者　藤原 行順

令和5年4月1日現在

地域ニーズに基づいた共生型サービス

グループホーム美山（小規模多機能型居宅介護）では、介護保険サービス対象者に対しサービスを提供しています。今般、美山地区の65歳未満の障がい者より、共生型生活介護（デイサービス）、共生型短期入所（ショートステイ）を利用したいとの申し出がありました。美山地区圏域には障がい分野の日中活動の場はありませんが、グループホーム美山のサービスで共生型として障がい者を受け入れることができ、活動の幅が広がっています。

地域につながる運営推進会議

グループホーム美山は、地域密着型サービス事業所として、２か月に１回運営推進会議を開催しています。参加者は公民館館長、地区社協会長、自治会長、民生委員、包括支援センターなどの地域機関の方々や、居宅介護支援事業所等の介護事業所、利用者様ご家族等です。グループホーム美山の取り組みの報告や、意見交換、地域課題を共有しています。地域に開かれた、地域に根差す事業所として、今後も取り組みを継続します。

コロナ禍での活動

コロナ禍の日常は変わりませんが、そのようななかでも、事業所では四季折々の行事や活動を継続しています。利用者様にとってかけがえのない１日に、生きがいややりがいを感じることができ、ほっと安心する居場所が彩られるよう、職員も含めてできることを日々考え共に創り上げています。

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

コロナ禍も３年が経ちました。社会は制限緩和の方向に進んではいますが、高齢者福祉施設の感染対応に変わりはありません。そのようななかでも、地域に共に生きる、利用者様、地域の方々、職員にとって有意義な日常生活、地域活動ができるよう工夫をして取り組んでいきたいと考えています。

高齢者福祉部門

福井大東包括支援センター（ほやねっと大東）

FUKUI DAITO HOUKATSU SHIEN CENTER

地域にお住まいの高齢者様が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、さまざまなお困りごとに対して「主任ケアマネジャー」「社会福祉士」「保健師」などが中心となって互いに相談・検討しながら、さらに各機関や地域住民が連携し、「チーム」として総合的に支援を行っています。

DATA

事業内容　地域包括支援事業／介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
対象利用者　地域住民65歳以上の高齢者（第1号被保険者）および40歳～64歳までの医療保険加入者（第2号被保険者）
所在地　福井市丸山町40-7 愛全園3F
管理者　藤田 佐富美

令和5年4月1日現在

いよいよ啓蒙地区の地域課題に取り組み開始

担当圏域最大の人口である啓蒙地区の課題にいよいよ取り組んでいます。この地区の課題は一人暮らしの高齢者が多く、地域との関わりが薄いために相談につながりにくいことです。早期相談につながるように、チラシを戸別配布、エリアのスーパーマーケットでの相談窓口の開設、各関係機関や住民の方を交えての地域ケア推進会議で情報共有を行いました。今後も課題解決に向けてアイデアを出しながら取り組みを継続していく予定です。

認知症の人・家族にやさしい町づくり進めてます!

今年度は小学校や銀行を始め、７件の認知症サポーター養成講座の依頼が入り開催。９月の認知症普及月間にはキャラバンメイトやサポーター養成講座修了者と一緒にキャンペーンに出向きました。年が明け１月30日にはこの大東圏域内での認知症ケアパスの作成会議を地域住民や事業所、行政や福井市認知症地域支援推進員と共に開催しました。人と事業所、地域をつなぎながら進めていきます。

地域に根差した相談窓口の設置

新たな大東包括支援センターの相談窓口として、フレンドマート開発店に月に１回窓口を開設し、気軽に血圧・体脂肪・握力を測定してもらいながら、いろいろな相談にお答えしています。２月11日は福井市の東山プールの健康フェアに相談窓口を開設し、介護予防や認知症等について質問にお答えしました。このように住民の皆様の身近な場所・機会を捉え、相談にお答えしていきます。

NEXT STEP　次年度に向けた取り組み

まずは今年度の事業を引き続き行います。担当圏域には地域活動への協力を申し出ている事業所様がいます。包括支援センターは圏域内の事業所と地域をつなぐ役割もあり、今後も機会をとらえ、社会資源の創出や介護予防活動につないでいけたらと考えています。